

【今週の注目疾患】

《梅毒》

2022年第6週に県内医療機関から2例の梅毒の報告があり、2022年（第1～6週）の累計は32例となった。前々週は8例、前週は10例の報告を認めており、過去10年間の同時期と比べ症例数は最も多くなっている（図1）。累計32例のうち、性別では、男性24例（75%）、女性8例（25%）で男性が多く、年代別では20代が9例（28%）、50代が8例（25%）、40代が7例（22%）の順に多く見られた。男性では50代が8例、40代が7例と40～50代の患者が多く、また20代から80代まで幅広く報告されていた。一方女性では20代が8例中6例と大半を占めており、その他10代が1例、30代が1例と若年者からの報告が顕著だった（図2）。なお、2022年はこれまでのところ先天梅毒や妊婦症例の報告は確認されていない。

図1：2013年～2022年6週千葉県の梅毒年別累積届出数（N=1226）

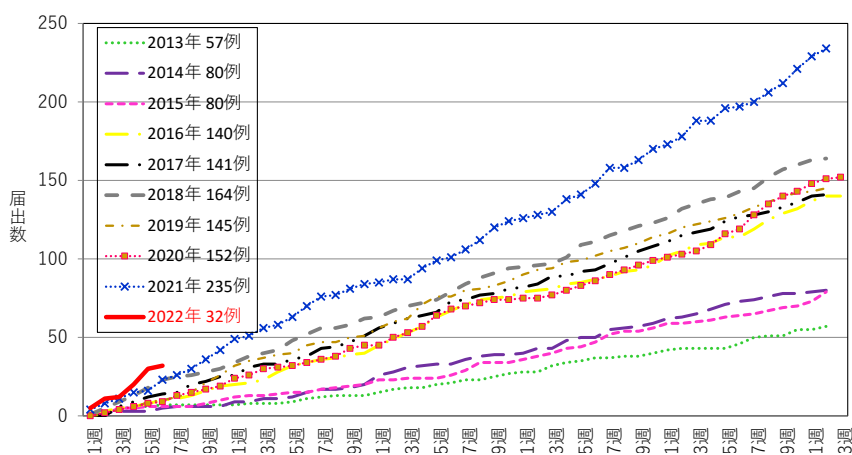
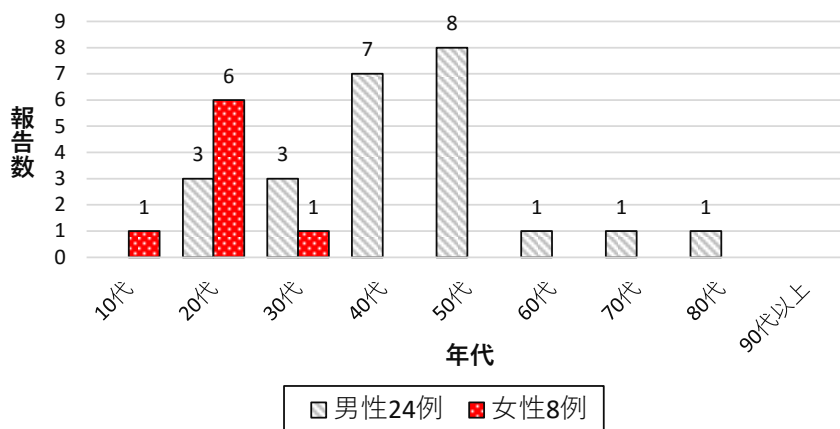


図2：2022年1週～6週までの県内梅毒症例の年代別報告数(n=32)



近年の全国における梅毒の発生動向調査(2022年1月7日時点)¹⁾によると、男女ともに異性間性的接触を感染経路とする感染者の届出数が増加してきている傾向があり、本県においても2022年に報告された32例の梅毒症例のうち性的接触が原因と推定された症例が27例認められていたが、うち15例(56%)が異性間性的接触によるものと推定されている。

た。

本年は過去最多の患者報告数を記録した昨年を上回るペースで発生が続いているため、引き続き、コンドームの不適切な使用による感染リスクの上昇や、オーラルセックスやアナルセックスでも感染すること、パートナーの検診、妊婦検診や妊娠中の性感染症予防の重要性について、広く啓発を行っていく必要がある。

県では保健所において無料・匿名の検査を実施しているとともに、2021年10月からちば県民保健予防財団への委託検査を毎月実施しているため、受検を希望する方は活用されたい。なお、最新の検査実施状況については、県ホームページ等でご確認いただきたい²⁾。

《梅毒について》

梅毒は、原因である梅毒トレポネーマに感染すると、約3週間の潜伏期を経て、経時的に様々な臨床症状が逐次出現する。その間症状が軽快する時期があり治療開始が遅れることにつながる。梅毒は早期の薬物治療で完治が可能であるが、検査や治療が遅れたり、治療せずに放置したりすると、長期間の経過で脳や心臓に重大な合併症を起こすことがある³⁾。時に無症状になりながら進行するため、治療を途中でやめないこと、また完治しても感染を繰り返すことがあり、再感染の予防が必要である。

《先天梅毒について》

妊娠している人が梅毒に感染すると、胎盤を通して胎児に感染し、死産、早産、新生児死亡、奇形が起こることがある。早期先天梅毒と無治療の場合に1年以上の経過を経て発症する晩期先天梅毒に分けられ、先天梅毒の児の約60%は出生時無症状といわれているが、多くの症例は3か月以内に症状が出現するといわれている。早期先天梅毒では肝脾腫、皮膚病変（水疱疹、斑点状丘疹）、全身性リンパ節腫大、骨軟骨炎、鼻炎、肝機能障害、低血糖、溶血性貧血、血小板減少や中枢神経症状といった症状を認め、晩期先天梅毒は鼻・硬口蓋・各臓器・骨などのゴム腫様潰瘍、Hutchinson 歯（半月状の上顎切歯）、実質性角膜炎や内耳性難聴などの症状を認める⁴⁾。

■参考:

1): 国立感染症研究所: 日本の梅毒症例の動向について(2022年1月7日現在)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/syphilis-m/syphilis-trend.html>

2): 千葉県: エイズ・性感染症関連情報

<https://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/kansenshou/aids/index.html>

3): 国立感染症研究所: 梅毒とは

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/465-syphilis-info.html>

4): 国立感染症研究所: 先天梅毒の届出に関する手引き